

接続方法

- ◆ 冷却器本体の電源プラグをコントローラー下部のコンセントに差し込んでください。
(KDA-2001A, 3001A の冷却器の電源線は、直接ブレーカーに接続し、コネクタのついた制御線はコントローラーの下部に接続してください)
- ◆ センサー線と冷却器裏面にあるセンサー線とをつなぎます。
- 接続部が濡れないようにしてください。
- ◆ 温度コントローラーの電源プラグを電源コンセントに差し込んでください。
(ただし、KDA-2001A, 3001A は制御線をつないでいけばOKです)

電源の ON・OFF

- ◆ 電源ボタンを一度押してください。E/E/Eと1Cが表示されてからすぐに消え、現在温度が表示されます。
- 現在の水温が感知されて表示窓に表示されると、温度調節器の自動制御運転が始まり、3分後に冷却器が作動します。
- ◆ 電源ボタンをもう一度押します。
- 表示窓が消えて、温度調節器は待機状態となり、冷却器が停止します。



注意

この時の状態は、電源が完全に切れているのではなく温度調節器の機能が停止していることを表します。長時間の運転停止と電源を切る場合には、ブレーカーのスイッチを切ってください。

設定温度を調整するには

※工場出荷の際には設定温度が14.0℃に設定されています。

- ▶ UP / DOWN のどちらかを3秒間押し続けます。
- ▶ 数字が点滅したら指を離してください。
- ▶ 上げボタンと下げボタンで設定したい温度に調整します。
- ▶ 温度設定の調整が完了したらボタンから手を離して10秒間お待ちください。
- ▶ 10秒後に現在の水温が表示されます。

※ 設定温度の確認方法は、上げボタンや下げボタンを軽く押すと確認できます。

自動運転

- ▶ 温度調節器は設定温度を基準にして、オン・オフを自動的に繰り返しながら運転することで設定温度を維持、管理します。
- ▶ 自動運転の際の入切温度差
 - 設定温度を基準に+0.2℃の温度でオンになります。
 - 設定温度を基準に-0.2℃の温度でオフになります。

※オンになってから冷却器が起動するまでに3分の遅延時間があり、3分後に正常に稼動します。

3分間の遅延時間は、冷却器の冷媒ガスの圧力変化から冷却器の主要部品であるコンプレッサーを保護するために設けられている時間であり、入切温度差と遅延時間を変更することはできません。

現在温度(コントローラー表示温度)の温度誤差を補正するには

※温度誤差の調整機能です。むやみに触れないでください。

現在表示温度変更方法（目的温度、温度設定とは違います）

クーラーの温度表示を水温計などの表示と合わせたい場合は、下記の例のようにしてください。

例) 水温計は25℃なのにクーラー表示温度が25.6℃の場合

UPとDOWNボタンを同時に押し続ける(約15秒)。CAの文字から数字に変わったなら指を離す。

すぐにDOWNボタンを押して25.0℃まで下げる。指を離す。5秒後に自動的に記憶される。

※変更可能温度範囲±4.9℃

異常表示

温度センサーの異常 または測定範囲より高い時	H.1
温度センサーの異常、または測定範囲より低い時	Lo.1
センサー線がショートした時	E.11
センサー線が断線した時	E.12

表示ランプ

● 冷却	消灯	冷却器の停止状態
	点滅	冷却器の運転待機状態 (3分間点滅します)
	点灯	冷却器の運転状態